

加佐診療所と市街地を結ぶバスを増便運行



1月5日(月)から、通院などのしやすい朝の時間に、加佐診療所と市街地を結ぶバス路線「大江線」を平日のみ毎朝1便増便して運行します。これは、加佐地区の皆さんの通院や外出の環境改善を図るため、京都交通(株)と協力し実施するもの。当面1年間は実証実験として運行します。

また、加佐地区の皆さんの加佐診療所までの移動手段として同診療所が従来から運行している「巡回バス」は、診療所を利用しない人も利用可能になります。加佐診療所までは「巡回バス」、診療所から「大江線」(増便)を利用することで、公共交通による市街地への外出が便利になります。帰宅時も、従来から運行している西舞鶴駅前発(14時5分発、16時5分発)の大江線で加佐診療所まで戻ると、診療所から「巡回バス」で帰ることができます。

「大江線」の増便に伴い、75歳以上を対象に実施している「高齢者外出支援事業」の「乗車票」の販売期間を12月末から1月末まで延長して販売します。なお、乗車票の使用期限は3月末まで。

※「高齢者外出支援事業」は、75歳以上を対象に公共交通(バス・KTR・タクシー)が割安になる制度です。

◆加佐診療所と市街地を結ぶバスの運行

- 【運行開始日】1月5日(月)から
- 【運行区間】八田・由良川学園前(加佐診療所前)～各バス停～日赤病院前
- 【運行ダイヤ】
 - ◆9時40分発…八田・由良川学園前(加佐診療所前)
 - ◆9時58分着…西舞鶴駅前
 - ◆10時1分着…日赤病院前
- ※日赤病院前から東西循環線(病院間循環バス)に乗り換えることで、舞鶴医療センターと共済病院の受診が可能。
- 【運賃】150円～350円
- 【運行事業者】京都交通(株)

◆加佐診療所「巡回バス」

巡回バスは、曜日によりルートとダイヤが異なります。詳しくは、加佐診療所へお問い合わせを。

◆高齢者外出支援事業の「乗車票」販売期間を延長

75歳以上の方を対象に販売している公共交通をお得に利用できる「乗車票」の販売期間を1月末まで延長します。

- ▶「大江線」に関するお問い合わせは、企画政策課(☎66・1042)か京都交通(株)(☎77・5000)へ。
- ▶加佐診療所「巡回バス」に関するお問い合わせは、加佐診療所(☎82・0031)へ。
- ▶「高齢者外出支援事業」に関するお問い合わせは、高齢者支援課(☎66・1018)へ。

市民会館 閉館のお知らせ

市民会館を平成28年2月末に閉館します。同館は、昭和43年の開館以来、文化や芸術の拠点として利用されてきましたが、築後46年が経過したことで老朽化が進み、耐震強度が現在の基準を満たしていないため、継続した運営が難しいと判断したものです。

市民会館の文化ホールについては、閉館後1年間、総合文化会館1館体制での利用状況や不足する機能などを検証し、平成28年度末に新たに整備すべきか判断する予定です。

市民会館に併設する西公民館、郷土資料館については、今後の方針が決まり次第お知らせします。

ご理解とご協力をお願いします。

- ▶「文化ホール」に関するお問い合わせは、文化振興課(☎66・1019)へ。
- ▶「郷土資料館」に関するお問い合わせは、社会教育課(☎66・1073)へ。
- ▶「西公民館」に関するお問い合わせは、中央公民館(☎62・0400)へ。

まるごと舞鶴 in 東京タワー

市では、昨年11月から3月まで東京都内で舞鶴への観光誘客キャンペーン「来てーな舞鶴2014」を展開中。その一環として、昨年12月6・7日の2日間、舞鶴の名物グルメを提供するイベント「まるごと舞鶴 in 東京タワー」を実施しました。

当日は、コッペカに汁や舞鶴かまぼこ、肉じゃが、舞鶴おでん、ホルモンうどんなど舞鶴自慢のグルメブースのほか、クイズラリーなどの催しを通して舞鶴の魅力をPR。また、東京タワー内では、引揚記念館の特別展示も行い、多くの来場者でにぎわいました。

《観光商業課》



▲天候にも恵まれにぎわう野外ブース



▲特別展示に見入る来場者



の中で仕事というのが一体化されているので、僕にとっては今も休みといえれば休みですし、農閑期はサラリーマンよりもっと長い休みがあったら、1日3時間しか働かなかつたりとか(笑)。その代わりに夏場は死ぬほど働きます。ただ、企業の経営を軸におく仲間もいますから、そうなれば当然休日の確保も必要です。

市長 私も前の仕事るときは年中無休で正月も関係ありませんでした。ある程度ポランティア的に仕事をする事によって、人から喜ばれるとか、多少つらくても誇りを持ってものがあるとか、守るべき者があるとか、そういうような気持ちを持つていないとやりづらいいのですが、農業はどうですか？

霜尾 そうですね。お金とか給料じゃないという価値観を心に秘めていないとだめだと思います。

市長 少しは休みをもらえると続けられ

るなあという人が近くにいるというのはどうですか？

霜尾 その方が逆にいいのではないのでしょうか。それは農業の多様性として重要で、そう考える人もたくさんいます。企業化をしてそこで雇用を生むことも大事なことです。ちゃんと休みもとって「商品」ではなく「食品」を生産していくというところが前提で。一方、僕を含めて、有機農業で自給自足がしたい人たちもいて、農村文化を大事にしながら、なおかつ、企業にはできない役割を担い、そこから音楽とか家族のエピソードとか、いろんなものを交えながら発信していく、自分の生活スタイル全部を売っていく形態。それぞれに重要な要素があると思います。あとは、農業をする人が増えてほしいですね。後継者を増やすことと新規就農者を増やすこと、どちらも必要です。ただ、新しい人が入ってくるのにもいつもネックになっているのが、家が確保できないということです。

市長 今、私が考えているのは、舞鶴版のお年寄りとお若者の「クロスシフト」です。一人暮らしのお年寄りとか、子どもは都会に行ってしまうと、おじいちゃんおばあちゃんだけとか、自分で車も乗れない、そういう人に街の中の商店街に住んでもらい、商店街のお客さんになってもらおうと思うんです。一方、田舎の空いた家を若者に貸してリフォームしてもらって、そこに若者が住む。車の運転できないお年寄りは街の中、車の運転できる若者で子どもがいる人は周辺地域に行って、農業をしてもいいし、そこから企業に勤めに行っても

いいのではないのでしょうか。そういう形でお年寄りも若者も、生活スタイルを選択して、舞鶴で豊かに住み続けられる仕掛けを考えているところなんです。

霜尾 なるほど斬新なアイデアですね。農村にはお年寄りがいるからこそ味わい深さや、農村で命を育んできた人たちの心意気というものがありますから、一概には言えないとは思いますが、一人ひとりの思いをくみ取りながら進めることができるのなら、すばらしいアイデアだと思います。たしかに80歳を過ぎたら出ていきたいという声もありますからニーズはあるでしょうね。

市長 では最後に、農業の将来や夢を教えてください。

霜尾 「幸せな農村」を作りたいです。ハッピーな農村であるためには農業が必要で。それと、農業をやりたい人ばかりではなくて、手に職を持った人やインターネットの仕事ができる人、看護師とか資格を持った人、そういう人たちにたくさんこの地に住んでほしいと思います。

市長 そのためには、衣食住に係る経費が安いということが都会に勝る重要なポイントで、同じ年収でもはるかに住みやすいんだということを強調したいですね。できるだけ交通の便をよくし、西舞鶴駅だとか病院に行くバスの便を増やして、便利にすることが重要ですね。

霜尾 それは、みんなが切実に望んでいることです。

市長 そうすれば、お年寄りでも街に買い物に行ってくるだとか、行ったついでにレストランで食事をしてきたり、病院で診察した後に買い物をして帰ってきたりできます。また、医療と教育は都会並みで自然豊かな場所であつたりと暮らせる農村の姿を作っていくことが大事ですね。

霜尾 お年寄りだけではなく子どもを持つ親にとっても切実です。巡回バスとすべての公共バスが連携して、子どもに行っておいでって言ったら、夕方には自分で家まで帰ってこれるということ、親にとっては、田舎に住んでも大丈夫だということの要素になると思います。田舎に住みたい人はいっぱいいます。家賃も安い。来たい人にはぜひ来てもらいたいです。

市長 多様な職業の人が農村に住む。その中で、近くの人たちが霜尾さんの作った野菜や卵がほしいと買いに来られる。そのようになると、まさに理想的で「幸せな農村」になりますね。

今日は、いろいろと農村の姿が勉強できました。ありがとうございました。

